

特別の場合に過ぎず。ㄱは同一字を以てpとbとを、ㄷはkとgとを、ㄷ이はxとrとを、ㄷ이 is sの外、小數の場合に於てはzを、ㄷ이 is zの外小數の場合に於てsを表はし、又ㄷ이及ㄷ이の二字は共にt、dの二音を表はすものなり、而して此等の文字が如何なる場合に於て何れの音を表はすものなるかに就きては、精密なる規則を定め得べからず、Thomsen氏は一九〇一年發行のKeleti Szemleに於て、*Sur le système des consonnes dans la langue Oïgour*なる一篇を公にし、此等の點に付きて大に闡明する所ありしも、然も尙疑點の存するもの少しとせず、Radloff氏の如きは一九一五月四月、余に宛てたる私信に於て、氏の音譯法に關し次の如く辯明せり。

My transcription is not a transcription of sounds but a transcription of letters, if in the text is the letter **q** I am transcribing it by *qa*, because in different times and different places it may be spoken *q*, *χ*, *r* (*qa*, *χa*, *ra*). The reader may speak it how he wishes.

回鶻語に於ては固より此の間に嚴重なる區別の存したること、之と極めて近親の關係を有する突厥語、若しくは現代の土耳其語諸方言の上より類推するも明らかかなれば、此の如きは極めて不自然にして、且つ不完全なる表音法と云はざる可らず、而してかかる不完全なる表音法を用ゐるに至りしは、次章に於て述ぶるが如く、回鶻文字なるものが回鶻語と全く系統を異にしたる言語を寫すに用ゐられたる文字を、殆んど其の儘に輸入したるが爲に外ならざるが如し。

回鶻文字

東洋文庫

